

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】 関東財務局長
【提出日】 平成24年8月8日
【四半期会計期間】 第16期第3四半期（自平成24年1月1日至平成24年3月31日）
【会社名】 株式会社ビューティ花壇
【英訳名】 Beauty Kadan Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 三島 美佐夫
【本店の所在の場所】 東京都墨田区横網一丁目2番16号両国国技館前東誠ビル7階
【電話番号】 03 - 5819 - 5670
【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 須浪 薫
【最寄りの連絡場所】 東京都墨田区横網一丁目2番16号両国国技館前東誠ビル7階
【電話番号】 03 - 5819 - 5670
【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 須浪 薫
【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

連結子会社である昇建設株式会社において、繰延税金資産の回収可能性検討後の税効果会計処理に誤りがあり、法人税等調整額及び関連項目の数値修正を行う必要が生じたためであります。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

レビュー報告書

3【訂正箇所】

訂正箇所は_を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第3四半期連結 累計期間	第16期 第3四半期連結 累計期間	第15期
会計期間	自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日	自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日	自 平成22年7月1日 至 平成23年6月30日
売上高 (千円)	3,090,689	3,240,362	4,122,743
経常利益 (千円)	118,583	83,985	181,533
四半期(当期)純利益 (千円)	90,637	<u>73,129</u>	125,462
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	101,856	<u>66,067</u>	142,806
純資産額 (千円)	523,286	<u>594,660</u>	565,013
総資産額 (千円)	1,532,322	<u>2,186,366</u>	1,644,625
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	4,201.09	<u>3,461.03</u>	5,830.51
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	4,184.85		5,813.54
自己資本比率 (%)	30.6	<u>23.5</u>	30.7

回次	第15期 第3四半期 連結会計期間	第16期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日	自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	986.72	<u>3,313.14</u>

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第15期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
4. 第16期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、平成24年2月1日に昇建設株式会社の株式を取得し、土木事業を主たる事業とする同社が連結子会社となりました。なお、当第3四半期連結会計期間は貸借対照表のみを連結しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、新たに締結した重要な契約は次のとおりであります。

当社は、平成24年3月9日開催の取締役会において、株式会社システムハウス福知山が実施する第三者割当増資を、株式会社システムハウス福知山が平成24年3月17日に開催の臨時株主総会において、第三者割当増資による新株式発行に関する議案が承認可決されることを条件として、当該増資の全株を引き受けることを決議し、平成24年3月21日付で株式総数引受契約書を締結いたしました。

詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（重要な後発事象）」に記載しております。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

第1四半期連結会計期間より、生花祭壇事業及びブライダル装花事業売上に対応する原価をより適切に示すため、売上原価及び販売費及び一般管理費の一部を組み替えによる表示の変更を行っており、遡及処理後の数値で当四半期連結累計期間の比較・分析を行っております。

また、前連結会計年度の期末より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当四半期連結累計期間の比較・分析は、変更の影響を含めております。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災の影響により厳しい状況にあるもののサプライチェーンの復旧に伴う生産活動については回復基調に推移いたしました。一方、欧米景気の停滞や円高の長期化に伴う輸出環境の悪化、企業が生産活動の停滞、雇用、所得環境の低迷等もみられ、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、中期経営計画の達成に向けてグループ一丸となって取り組んでおります。基本方針として、新規顧客の積極的な開拓と既存顧客における当社への発注シェアアップによる売上アップ、徹底的な経費削減を推進してまいりました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、3,240,362千円（前年同期比4.8%増）となりました。売上総利益は、中期経営計画の1つである徹底したローコストオペレーションのために取り組んでいる加工物流センターへの設備投資と同センターにおける人材の先行雇用、教育費用が増加したことにより、557,434千円（前年同期比9.5%減）となりました。販売費及び一般管理費は、顧問料、支払手数料等を抑え471,962千円（前年同期比4.9%減）となり、営業利益は、85,472千円（前年同期比28.6%減）となりました。また、経常利益は、83,985千円（前年同期比29.2%減）、四半期純利益は、負ののれん発生益、法人税等により73,129千円（前年同期比19.3%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、2,419,348千円（前年同期比2.9%増）となりました。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、葬儀業の平成23年7月から平成24年2月までの売上高は383,406百万円（前年同期比3.8%増）、件数は270,210件（前年同期比4%増）と増加傾向にあります（同調査は、平成24年1月分より葬儀業において、一部調査対象の追加等が行われており、平成23年12月以前の数値はリンク係数で除した数値で前年比較を行っております）。このような状況の中、前述の全社基本方針を徹底してまいりましたが、加工物流センターへの設備投資と同センターにおける人材の先行雇用、教育費用が増加したことにより営業利益は231,118千円（前年同期比24.5%減）となりました。

(生花卸売事業)

生花卸売事業の売上高は、627,399千円（前年同期比8.7%増）となりました。東京都中央卸売市場「市場統計情報」（平成24年2月）によると、平成23年7月から平成24年2月までの切花累計の数量は613百万本（前年同期比1%減）、金額では38,447百万円（前年同期比1%減）と数量、金額ベースで減少となっております。当社では、前述の全社基本方針を徹底した結果、当第3四半期連結累計期間の売上数量は前年同期比で22.4%増となっており、営業利益は129,529千円（前年同期比5.8%減）となりました。

(ブライダル装花事業)

ブライダル装花事業の売上高は、193,615千円（前年同期比19.9%増）となりました。結婚式場業は少子化や晩婚化等の影響を受けており、経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、平成23年6月から平成24年2月までの結婚式場業の売上高は116,103百万円（前年同期比9.8%減）、取扱件数は39,576件（前年同期比9%減）と減少傾向にあります。当事業を請け負う連結子会社の株式会社クラウンガーデネックスにおいて、新規顧客の積極的な開拓と既存顧客における当社への発注シェアアップによる売上アップにより、売上高、売上総利益ともに改善し、営業利益は13,106千円（前年同期は896千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ541,741千円増加し2,186,366千円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ326,812千円増加し、1,362,465千円となりました。これは主に受取手形及び売掛金と完成工事未収入金の増加によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ214,930千円増加し823,901千円となりました。これは主に、建設仮勘定の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度末に比べ512,094千円増加し、1,591,705千円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ310,480千円増加し、908,775千円となりました。これは主に、短期借入金と1年内返済予定の長期借入金の増加によるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ201,615千円増加し、682,930千円となりました。これは主に、長期借入金の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間の純資産は、前連結会計年度末に比べ29,647千円増加し、594,660千円となりました。これは主に、昇建設株式会社を連結子会社化したことに伴う利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	88,000
計	88,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年5月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	25,380	25,380	東京証券取引所 (マザーズ)	当社は単元株制度は採用しておりません。
計	25,380	25,380		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年1月1日～ 平成24年3月31日	-	25,380	-	213,240	-	133,240

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,427	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,953	20,953	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
発行済株式総数	25,380	-	-
総株主の議決権	-	20,953	-

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ビューティ花壇	東京都墨田区横網1丁目2番16号	4,427		4,427	17.44
計		4,427		4,427	17.44

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年1月1日から平成24年3月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年7月1日から平成24年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人よつば総合事務所による四半期レビューを受けております。

なお、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、監査法人よつば総合事務所による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年 6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	515,811	606,412
受取手形及び売掛金	435,351	500,052
完成工事未収入金	-	131,331
商品	2,762	1,939
仕掛品	198	154
原材料及び貯蔵品	11,554	21,367
未成工事支出金	-	6,464
その他	73,114	109,753
貸倒引当金	3,140	15,011
流動資産合計	1,035,653	1,362,465
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	114,295	159,239
減価償却累計額	56,382	85,166
建物及び構築物(純額)	57,913	74,072
工具、器具及び備品	174,137	175,026
減価償却累計額	115,536	127,104
工具、器具及び備品(純額)	58,601	47,922
土地	122,842	166,008
建設仮勘定	-	193,889
その他	66,725	129,954
減価償却累計額	11,373	48,303
その他(純額)	55,352	81,650
有形固定資産合計	294,708	563,542
無形固定資産	15,625	5,966
投資その他の資産		
差入保証金	161,502	101,888
その他	158,806	174,103
貸倒引当金	21,670	21,599
投資その他の資産合計	298,638	254,391
固定資産合計	608,971	823,901
資産合計	1,644,625	2,186,366

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	75,783	128,676
短期借入金	40,500	122,000
1年内返済予定の長期借入金	193,560	319,038
未払法人税等	39,905	14,798
賞与引当金	-	21,613
その他	248,547	302,648
流動負債合計	598,295	908,775
固定負債		
社債	95,000	70,000
長期借入金	350,064	572,509
退職給付引当金	14,369	15,986
資産除去債務	-	889
その他	21,882	23,545
固定負債合計	481,315	682,930
負債合計	1,079,611	1,591,705
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,240	213,240
資本剰余金	133,240	133,240
利益剰余金	308,722	339,155
自己株式	142,851	158,539
株主資本合計	512,350	527,096
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	7,301	12,373
その他の包括利益累計額合計	7,301	12,373
少数株主持分	59,964	79,938
純資産合計	565,013	594,660
負債純資産合計	1,644,625	2,186,366

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)
売上高	3,090,689	3,240,362
売上原価	2,474,748	2,682,928
売上総利益	615,941	557,434
販売費及び一般管理費	496,263	471,962
営業利益	119,678	85,472
営業外収益		
受取利息	394	304
受取地代家賃	8,224	7,939
その他	3,957	7,517
営業外収益合計	12,576	15,762
営業外費用		
支払利息	8,173	7,493
不動産賃貸費用	3,140	2,915
その他	2,356	6,838
営業外費用合計	13,670	17,248
経常利益	118,583	83,985
特別利益		
固定資産売却益	1,501	-
移転補償金	40,271	-
負ののれん発生益	-	36,088
特別利益合計	41,772	36,088
特別損失		
固定資産除却損	7,656	14,875
その他	6,548	-
特別損失合計	14,204	14,875
税金等調整前四半期純利益	146,152	105,198
法人税、住民税及び事業税	55,200	44,437
法人税等調整額	12,776	10,379
法人税等合計	42,423	34,058
少数株主損益調整前四半期純利益	103,728	71,140
少数株主利益又は少数株主損失()	13,090	1,988
四半期純利益	90,637	73,129

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	103,728	71,140
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,871	5,072
その他の包括利益合計	1,871	5,072
四半期包括利益	101,856	66,067
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	89,701	70,592
少数株主に係る四半期包括利益	12,154	4,525

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)
平成24年2月1日に昇建設株式会社の株式を取得したことに伴い、当第3四半期連結会計期間より同社は連結子会社となりました。なお、みなし取得日を当第3四半期連結会計期間末としているため、当第3四半期会計期間は貸借対照表のみを連結しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)
減価償却費 39,146千円	減価償却費 45,327千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年9月24日 定時株主総会	普通株式	28,740	1,300	平成22年6月30日	平成22年9月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年9月22日 定時株主総会	普通株式	42,696	2,000	平成23年6月30日	平成23年9月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル 装花事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	2,351,705	577,230	161,521	3,090,456	233	3,090,689		3,090,689
セグメント間の内部 売上高又は振替高		680,946	10,808	691,755		691,755	691,755	
計	2,351,705	1,258,176	172,330	3,782,211	233	3,782,445	691,775	3,090,689
セグメント利益又は損 失()	306,011	137,547	896	442,662	747	441,915	322,236	119,678

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プランツスケープ事業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 322,236千円には、セグメント間取引消去6,669千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 328,906千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	生花祭壇事業	生花卸売事業	ブライダル 装花事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,419,348	627,399	193,615	3,240,362		3,240,362
セグメント間の内部 売上高又は振替高		733,393	7,256	740,649	740,649	
計	2,419,348	1,360,792	200,871	3,981,012	740,649	3,240,362
セグメント利益又は損 失()	231,118	129,529	13,106	373,753	288,281	85,472

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 288,281千円には、セグメント間取引消去1,226千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 289,507千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、前第3四半期連結累計期間まで生花祭壇事業及び生花卸売事業の2つを報告セグメントとしておりましたが、前連結会計年度の期末より、生花祭壇事業、生花卸売事業及びブライダル装花事業の3つの報告セグメントに変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントに基づき作成してあります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

当社は、平成24年2月1日に昇建設株式会社の株式を取得し、連結子会社化したことで、当第3四半期連結累計期間に、負ののれん発生益36,088千円を計上しております。なお、当該負ののれん発生益は報告セグメントに配分しておりません。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 昇建設株式会社

事業の内容 土木事業

企業結合を行った主な理由

当社は、100%子会社である株式会社クラウンガーデネックスを中心に、造園施設の企画、設計、監理等を行っております。この度、昇建設株式会社の株式を取得し子会社化することにより、造園・土木に関する業務を強化し更なる事業の発展を目指すものであります。

企業結合日

平成24年2月1日

企業結合の法的形式

株式取得

結合後企業の名称

昇建設株式会社

取得した議決権比率

合併直前に所有していた議決権比率 0%

取得した議決権比率 69.1%

取得後の議決権比率 69.1%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社による現金を対価とした株式取得のためです。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

みなし取得日を当第3四半期連結会計期間末としているため、四半期連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	20,000千円
-------	----	----------

取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	4,483千円
------------	-----------	---------

取得原価		24,483千円
------	--	----------

(4) 負ののれん発生益の金額、発生原因

負ののれん発生益の金額

36,088千円

発生原因

受け入れた資産及び引き受けた負債の純額が株式の取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として処理しております。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び負債

流動資産	248,743千円
固定資産	39,601千円
資産合計	288,345千円
流動負債	208,389千円
固定負債	3,274千円
負債合計	211,664千円

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額(円)	4,201.09	3,461.03
四半期純利益(千円)	90,637	73,129
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	90,637	73,129
期中平均株式数(株)	21,574	21,129
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(円)	4,184.85	-
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	83	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当第3四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成24年3月31日)

1. 株式会社システムハウス福知山の第三者割当増資の株式引受完了(子会社化)

当社は、平成24年4月1日に株式会社システムハウス福知山が実施する第三者割当増資を引受け、株式を99.9%取得し子会社化いたしました。

(1)株式の取得の理由

株式会社システムハウス福知山の持つシステム領域における企画力・構築力と、株式会社ビューティ花壇の持つ商品開発力・事業プロデュース力・全国の事業拠点を活用して、冠婚葬祭事業者に対する新たな商品・サービスの開発や経営課題に応える新しいマーケティングソリューションサービスの提供、メディアのデジタル化に関連した新しい共同ビジネスの開発などについて推進し実現するため、基本合意書を締結し株式を取得するものであります。

(2)取得した子会社の概要(平成23年5月末現在)

名称	株式会社システムハウス福知山		
所在地	京都府福知山市字猪崎小字古黒353番地		
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 岡田 正人		
事業内容	パソコンによる各種システム販売・受託・設計・製作		
資本金	48,000,000円		
設立年月日	1986年6月		
大株主および持株比率	岡田 正人(85.2%)		
上場会社と当該会社との関係	資本関係	当社と当該会社との間には、記載すべき資本関係はありません。	
	人的関係	当社と当該会社との間には、記載すべき人的関係はありません。	
	取引関係	当社と当該会社との間には、記載すべき取引関係はありません。	
	関連当事者への該当状況	当該会社は、当社の関連当事者には該当しません。また、当該会社の関係者及び関係会社は、当社の関連当事者には該当しません。	
当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態			
決算期	平成21年5月期	平成22年5月期	平成23年5月期
純資産	142,867千円	127,696千円	128,189千円
総資産	374,296千円	351,588千円	330,068千円
1株当たり純資産	148,819円	133,016円	133,530円
売上高	205,296千円	181,650千円	199,277千円
営業損失	21,407千円	13,434千円	521千円
経常利益又は経常損失()	26,457千円	14,965千円	699千円
当期純利益又は当期純損失()	26,738千円	15,171千円	493千円
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失()	27,852円	15,803円	513円
1株当たり配当金	-円	-円	-円

(3) 第三者割当増資引受前後の所有株式の状況

異動前の所有株式数	0株 (議決権の数：0個) (所有割合：0%)
取得株式数	20,000,000株 (議決権の数：20,000,000個) (発行済株式数に対する割合：99.9%) (取得価額：20,000,000円)
異動後の所有株式数	20,000,000株 (議決権の数：20,000,000個) (所有割合：99.9%)

2. 自己株式取得に係る事項の決定

当社は、平成24年4月13日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行および株主への一層の利益還元を推進するため。

(2) 取得に係る事項の内容

取得対象株式の種類 普通株式

取得し得る株式の総数 1,000株(上限)

(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 4.77%)

株式の取得価額の総額 50,000,000円(上限)

取得期間 平成24年4月16日平成24年9月30日まで

取得の方法 東京証券取引所における市場買付

3. 昇建設株式会社(子会社)の増資引受け

当社は、平成24年4月13日開催の取締役会において、当社の子会社である昇建設株式会社の第三者割当増資の全額を引受けることについて、下記のとおり決議し、平成24年4月19日に払込が完了いたしました。

(1) 増資の目的

資本の充実と財務基盤の強化を図ることにより、造園・土木に関する業務を推進し、事業の発展を目指すためであります。

(2) 子会社増資の内容

発行新株式数 224,100株

発行方法 第三者割当

割当先 株式会社ビューティ花壇

発行価額 1株につき357円

発行価額の総額 80,003,700円

払込期日 平成24年4月19日

増資後発行済株式総数 320,100株

増資後資本金 90,000,000円

増資後の当社の持分比率 株式会社ビューティ花壇(91.8%)

(3) 子会社の概要（平成24年3月31日現在）

名称 昇建設株式会社
所在地 熊本市国府三丁目21番91号
代表者の役職・氏名 代表取締役社長 平山 正俊
事業内容 土木・管工事一式請負
資本金 48,000,000 円
設立年月日 昭和29年5月8日
大株主および持株比率 株式会社ビューティ花壇（69.1%）

4. 株式会社ピンクの株式取得（子会社化）に関する基本合意書締結

当社は、平成24年4月24日開催の取締役会において、株式会社ピンクの株式を取得し子会社化することを決議し、同日付で同社と基本合意書を締結いたしました。

(1) 株式取得の理由

株式会社ピンクの冠婚葬祭事業者向け人材派遣事業における採用力・人材育成のノウハウと、株式会社ビューティ花壇の持つ商品開発力・事業プロデュース力・全国事業拠点を活用して、冠婚葬祭事業者の人的経営課題に対する新たなサービスの開発と新しいソリューションサービスを提供する為、基本合意書を締結し株式を取得するものであります。

(2) 異動する子会社（株式会社ピンク）の概要

名称	株式会社ピンク		
所在地	東京都練馬区練馬1-36-2		
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 松本昭典		
事業内容	特定労働者派遣事業		
資本金	10,000円		
設立年月日	平成18年7月4日		
大株主および持株比率	松本 昭典（100%）		
上場会社と当該会社との関係	資本関係	当社と当該会社との間には、記載すべき資本関係はありません。	
	人的関係	当社と当該会社との間には、記載すべき人的関係はありません。	
	取引関係	当社と当該会社との間には、記載すべき取引関係はありません。	
	関連当事者への該当状況	当該会社は、当社の関連当事者には該当しません。また、当該会社の関係者及び関係会社は、当社の関連当事者には該当しません。	

当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態

決算期	平成21年7月期	平成22年7月期	平成23年7月期
純資産	11,370千円	14,771千円	14,177千円
総資産	9,660千円	11,848千円	11,130千円
1株当たり純資産	11,370千円	14,771千円	14,177千円
売上高	55,544千円	71,815千円	87,593千円
営業損失	3,252千円	2,207千円	693千円
経常利益又は経常損失（ ）	3,505千円	3,329千円	665千円
当期純利益又は当期純損失（ ）	3,581千円	3,401千円	594千円
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失（ ）	3,581千円	3,401千円	594千円
1株当たり配当金	- 円	- 円	- 円

(3) 株式取得の相手先の概要

氏名	松本 昭典
住所	東京都練馬区
上場会社と当該個人の関係	当社と当該個人（その近親者、当該個人及びその近親者が過半数所有している会社等並びにその子会社を含む。）との間には、記載すべき資本関係・人的関係・取引関係はありません。また、当社の関係者及び関係会社と当該個人並びに当該個人の関係者及び関係会社の間には、特筆すべき資本関係・取引関係はありません。

(4) 取得株式数、取得価格及び取得前後の所有株式の状況

異動前の所有株式数	0株 (議決権の数：0個) (所有割合：0%)
取得株式数	1株 (議決権の数：1個) (発行済株式数に対する割合：100%) (取得価額：未定)
異動後の所有株式数	1株 (議決権の数：1個) (所有割合：100%)

(5) 異動の日程

- 平成24年4月24日 取締役会決議
- 平成24年5月18日 株式譲渡契約書締結（予定）
- 平成24年6月1日 株式取得日（予定）

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月 8日

株式会社ビューティ花壇
取締役会 御中

監査法人よつば総合事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 神門 剛 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高屋 友宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティ花壇の平成23年7月1日から平成24年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年1月1日から平成24年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年7月1日から平成24年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティ花壇及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

- 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は、平成24年4月1日付で株式会社システムハウス福知山が実施する第三者割当増資を引受け、子会社化した。
- 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は、平成24年4月13日開催の取締役会において、自己株式取得に係る事項について決議した。
- 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は、平成24年4月13日開催の取締役会において、子会社である昇建設株式会社の第三者割当増資の全額を引受けることについて決議し、平成24年4月19日に払込が完了した。
- 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は、平成24年4月24日開催の取締役会において、株式会社ピンクの株式を取得し子会社化することを決議し、同日付で同社と基本合意書を締結した。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成24年5月7日に四半期レビュー報告書を提出した。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。